

## 2008年度事業報告

(2008年4月1日～2009年3月31日)

### 2008年度 活動テーマ

#### 日本人の生活力を考える ～ 現代(いま)を生き抜く生活力とは～

日本ヒープ協議会設立30周年・関西支部25周年・九州支部15周年を迎えた今期は、『日本人の生活力を考える～現在(いま)を生き抜く生活力とは～』を共通テーマとし、「30周年記念特別プロジェクト」と連携して活動を行うという新しい試みに挑戦した。

月例研究会では、各分野から講師を招き、さまざまな角度から「日本人の生活力」の現状について理解を深めた。2007年度に実施した「会員意識調査」の結果を受け、会員間の交流を促進する場や先輩ヒープから学ぶ機会を設けたことも、参加者の満足度を高めることができた。分科会活動では、日頃会員が仕事を通じて感じている「生活者の認識と企業の常識のギャップ」を集め、「情報カード活動報告書」として編纂した。周年行事の記念式典でこの「情報カード活動報告書」を発表したところ、食品、家電、化粧品、化学、繊維、エネルギー等多様な業界で構成されていること、かつ日々生活者と向き合っている体験の中から導き出された事例であることが、多くの方々から「ヒープの特徴を活かした、ヒープならではの活動」とご評価頂いた。

広報活動の一環として、今年度に限り月例研究会を一般公開とし、ヒープの活動を広く社会に知らせると共に理解を深めて頂いた。また老朽化していたホームページの全面リニューアルを実施し、見やすく管理しやすい形に変更した。

外部団体に対しては、消費者問題関連専門紙に30周年記念行事とその取り組みについてアピールし、また消費者行政の一元化に関してもヒープの立場から提言を行った。機関誌「レポートヒープ」では内閣府との対談記事の特集として掲載した。働く女性のリーディング集団としては、内閣府「男女共同参画会議」に今年も参加し、男女共同参画社会の実現におけるヒープの役割を再認識した。

理事会においては、運営方法の見直しにより効率化と標準化を行い、基盤を整備した。理事になることは組織のマネジメントを体験できる機会でもあり、今後も多くの会員が経験し、キャリアアップに繋がられるよう引き続き努めてまいりたい。

今期の活動が来期以降の新しいステージの一步となり、「会員の能力向上 企業活動への応用 社会への情報発信 社会的認知度の向上」という好循環に繋がっていくことを期待する。

2008年度代表理事 三田まり子

## ・活動目標と実績概況

### 1．生活者と企業のパイプ役として、より良い仕事をするための能力向上を図る。

会員の能力向上のための講演会を、東京 11 回、関西 11 回（うち 3 回は見学会）九州 6 回（うち 1 回は合宿研修）開催した。また会員に主体的に参加してもらうために運営グループを組織し、会員同士と一緒に仕事をする事でネットワークの醸成をはかった。

### 2．働く女性の集団として、少子高齢社会、企業における女性活用、その他時事問題に深く関心を持ち、調査、研究を行い、役立つ情報を発信する。

ヒープフェスタ関西「経営戦略としてのワークライフバランス」で、企業のダイバーシティマネジメントを学んだ。「第 8 回働く女性と暮らしの調査」に向けて、女性の働き方の多様化を踏まえた調査の企画を行った。

### 3．業種、職種、年齢を超えたヒープのネットワークを活用し強化しながら、分野を問わない多角的なテーマの研究をサポートする。

「生活者の認識と企業の常識のギャップ」を持ち寄り、検討を重ね、生活者に知ってほしい情報を「情報カード」として全員参加でまとめた。その成果は 30 周年記念事業として「情報カード活動報告書」として編纂した。その中でヒープが考える「生活力」を定義し、生活力アップのための基本 5 カ条を定めた。

### 4．会員ひとりひとりが、ヒープとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。

東京では分科会に先輩ヒープを招き意見交換を行い、若手ヒープが業務でヒープを活用するためのヒントを得た。関西支部では「ふれあいディナー・ランチ」を開催し、会員同士が自由に語り合うことでコミュニケーションが深まった。九州支部では、会員がヒープとして企業やユーザーにフィードバックするための「個人力」をアップさせる活動に注力した。

### 5．ヒープ協議会の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。

ホームページのリニューアルを実施し、「レポートヒープ」のあり方についても見直した。マスコミの取材に応じ、新聞に 12 件、雑誌に 8 件掲載された。一般消費者を対象とした「生活講習」を 3 回、学生を対象とした「ヒープの仕事講座」を 1 回開催。「情報カード活動報告書」をヒープ支援者、関係団体に無料で配布した。

### 6．会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒープとしての責任を果たす。

理事会の基盤整備を進めた。また会員交代が進み活動の継承が難しくなっている現状を鑑み、第 22 期に報告された「トータルコンセプト検討プロジェクト」の答申を更に一歩進め、「ヒープの使命」「活動基本方針」「活動内容」を「ヒープ コンセプト」として体系化した。組織図も改定した。

## ・事業実績

(

### 1. 2008 年度総会

議長団	議長	大場眞知子	(株)ゴールドウイン
	副議長	松山陽子	(株)永谷園
	書記	渡辺真奈美	日本水産(株)

#### 総会議事

2007 年度事業報告	2007 年度代表理事	有田里夏	はごろもフーズ(株)
2007 年度決算報告	2007 年度会計	岡田恭子	(株)資生堂
監事による会計及び業務報告	監事	町田成美	明治安田生命(相)
		林真由美	アサヒビール(株)
2008 年度役員選任	選挙管理委員会	仁見貞子	日本製粉(株)
2008 年度事業計画	2008 年度代表理事	三田まり子	(株)販売促進研究所
2008 年度予算計画	2007 年度会計	岡田恭子	(株)資生堂

#### 記念講演

テーマ	「Small but Excellent」		
講師	寺田千代乃氏 / アートコーポレーション株式会社 代表取締役社長		
総司会	大森伸子 / (株)学習研究社		

### 2. 月例研究会・公開講座等

#### <東京>

	会の名称	講演テーマ・講師	実施日・会場	出席者数
1	2008 年度 総会 公開記念講演	「Small but Excellent」 寺田千代乃氏 / アートコーポレーション株式 会社 代表取締役社長	4月22日(火) アイビーホール 青学会館	講演会 118名
2	第255回 月例研究会	「エコプロダクツ展から見た企業と生活者」 石井智章氏 / 株式会社日本経済新聞社 木下由香里氏 / 株式会社日本経済新聞社 文化・事業部 総合事業部 分科会(第1回)「情報カード」オリエンテー ション	5月21日(水) 女性と仕事の 未来館	講演会 69名 分科会 44名
3	第256回 月例研究会	「省エネルギーの正しい捉え方」 中村文子氏 / 株式会社東京エネルギーリサー チ代表取締役社長 分科会(第2回)「情報カード」作成	6月24日(火) 東京電力館	講演会 61名 分科会 47名
4	第257回 公開講座	「食の安全と安心～消費者の不安に企業として どう応えるか～」 唐木英明氏 / 東京大学名誉教授、内閣府食品安 全委員会専門委員、農学博士 分科会(第3回)「情報カード」作成 懇親会	7月16日(水) 女性と仕事の 未来館	講演会 89名 分科会 47名

5	第 258 回 月例研究会	「これからの企業・金融・消費者 ~ヒーブは何をなすべきか~」 高橋伸子氏 / 生活経済ジャーナリスト 分科会 (第 4 回)「情報カード」作成	9 月 18 日 (木) 文京シビックホール	講演会 52 名 分科会 39 名
6	第 259 回 月例研究会	「より良いコミュニケーションについて ~日常業務中での活かし方~」 田中圭子氏 / NPO 法人日本メディエーションセンター (JMC) 代表理事 分科会 (第 5 回)「情報カード」検討	10 月 21 日 (火) 女性と仕事の 未来館	講演会 55 名 分科会 37 名
7	第 260 回 公開講座	「社会的要請に応える経営と会社の評判管理 ~生活者起点にたってヒーブ会員に期待するもの~」 久新大四郎氏 / 偏西風事務所主幹 分科会 (第 6 回)「情報カード」検討	11 月 18 日 (火) 女性と仕事の 未来館	講演会 57 名 分科会 35 名
8	第 261 回 公開講座	「21 世紀の日本人の生活力とは」 沖幸子氏 / フラオ グループ株式会社代表取締役社長、生活経済評論家 分科会 (第 7 回) ヒーブに期待するもの	12 月 17 日 (水) 女性と仕事の 未来館	講演会 59 名 分科会 31 名
9	第 262 回 月例研究会	「消費者の変化と企業が求められるもの ~そしてヒーブの役割~」 近藤康子氏 / サントリー株式会社お客様コミュニケーション部顧問 「イオンでの食育推進の取り組み ~ヒーブから学んだもの~」 遠藤ひとみ氏 / イオンリテール株式会社食品商品本部フードアルチザングループ 分科会 (第 8 回)「先輩ヒーブとの交流からヒーブの未来を考える」意見交換会 懇親会	1 月 21 日 (水) 女性と仕事の 未来館	講演会 47 名 分科会 38 名
10	30 周年記念 式典	「日本人の生活力を考える ~現在(いま)の時代を生き抜く生活力とは~」 (詳細は 17 ページ参照)	2 月 18 日 (水) グランドアーク 半蔵門	191 名
11	第 263 回 公開講座	「話題注目商品 2008 2009 年」 四元正弘氏 / 株式会社電通 電通総研 消費の 未来研究部長 分科会 (第 9 回) 来年度の分科会テーマ	3 月 5 日 (木) 電通会議室	講演会 56 名 分科会 37 名

< 関西支部 >

	会の名称	講演テーマ・講師	実施日・会場	出席者数
1	支部大会 記念講演会 (公開講座) 懇親会	「私らしく働くために ~今、生活者と企業に 求められるもの~」 上田理恵子氏 / 株式会社マザーネット 代表取 締役社長 ガイダンスミーティング	5 月 22 日 (木) メルバルク大阪	48 名
2	2008 年度第 1 回 月例研究会 (見学会)	ダスキンの大阪中央工場見学 「ダスキンの環境に対する取り組み」 吉村俊樹氏 / 株式会社ダスキン 品質保証・リ スク管理部 環境推進室室長	6 月 17 日 (火) ダスキン 大阪 中央工場	26 名
3	2008 年度第 2 回 月例研究会	「職務満足とサービスクオリティ」 小玉一樹氏 / 株式会社フレスタ 管理本部 人事総務部 人事課長 テーマディスカッション<生活力について>	7 月 16 日 (水) 日本ハム(株)	26 名

4	2008 年度第 3 回 月例研究会 (ACAP 合同)	ACAP とヒーブのこれまでのあゆみ 「これからの時代のライフキャリア」 山本公子氏 / ころとキャリアのカウンセ リングオフィス結(ゆう)代表 「女性の職場におけるキャリアアップ、モチベ ーションアップ術」 豊田かをる氏 / 全日本空輸株式会社 客室本 部 関西客室部 客室乗務課課長 懇親会	9 月 24 日(水) MMビル	39 名
5	2008 年度第 4 回 月例研究会	「『発掘! あるある大事典』捏造問題 ～放送人として考えさせられたこと～」 向井洋子氏 / 関西テレビ放送株式会社 コンブ ライアンス推進室 視聴者情報部部長 「消費者視点から見た“食の安全・安心を背景 とするおいしさ”とは何か」 武政二郎氏 / 辻調理師専門学校・辻製菓専門学 校 食品安全推進室室長(食品衛生学)	10 月 29 日(水) (株)ダスキン本社	32 名
6	ヒーブセミナー (公開講座)	「食卓の向こう側～こんな日常どう思いますか ～」 佐藤弘氏 / 株式会社西日本新聞社 編集委員 「ヒーブフェスタ関西 25th」打ち合わせ ふれあいディナー	11 月 20 日(木) ドーンセンター	47 名
7	ACAP・ヒーブ施 設見学会	コープこうべ六甲アイランド食品工場 岩城径申氏 / 生産事業部 業務管理統括 大林力氏 / 総合食品保証室 食品工場品質管理 プロクター&ギャンブル・ジャパン株式会社 コンシューマーリレーションズ(お客様相談室) 山口太郎氏 / 室長 田中冬生氏 / 部門長補佐 山下浩子氏 / エクスターナルリレーションズ スーパーバイザー	11 月 21 日(金) コープこうべ・ プロクター&ギ ャンブル・ジャ パン株式会社	8 名
8	2008 年度第 5 回 月例研究会 (見学会)	「～お客様の声を活かす～『金のつぶ あらっ 便利!』商品開発について」 渡辺雅子氏 / 株式会社ミツカンチルド事業カ ンパニー マーケティング本部開発企画課 ふれあいランチ 中部国際空港、ミツカン酢の里見学	12 月 12 日(金) 中部国際空港 ミツカン	17 名
9	2008 年度第 6 回 月例研究会	「生活者コミュニケーションセンターの取り組 み」 金谷郁穂子氏 / 花王株式会社 生活者コミュ ニケーションセンター グループリーダー 「ヒーブフェスタ関西 25th」 打ち合わせ	1 月 20 日(火) ドーンセンター	33 名
10	ヒーブフェスタ 関西 25th	ヒーブの仕事紹介 「ダスキン収納とおそうじミニミニ講座」 野口美樹氏 / 株式会社ダスキン 暮らしの快適 化生活研究所 「経営戦略としてのワークライフバランス ～企業と個人がともに豊かであるために～」 黒瀬友佳子氏 / 帝人クリエイティブスタッフ 株式会社 人財部 ダイバーシティ推進室長 名刺交換会	2 月 27 日(金) 大阪産業創造館	120 名

11	2008 年度第 7 回 月例研究会	「保険の必要性を考える」 山下治与氏 / 日本生命保険相互会社 人事部 人材開発室 「品質管理の取り組みについて」 越智亜希氏 / 株式会社フレスタ 管理本部 施設衛生管理部 品質管理担当 グループディスカッション ふれあいランチ	3 月 19 日(木) 日本ハム(株)	22 名
----	-----------------------	---	------------------------	------

<九州支部>

	会の名称	講演テーマ・講師	実施日・会場	出席者数
1	支部総会 公開講座 懇親会	「“ 浪速のカリスマ添乗員 ” が語る ほんまも んのサービスはこれや！」 平田進也氏 / 株式会社日本旅行販売部マネー ジャー	6 月 6 日(金) 西鉄イン福岡 2 階 A ホール	76 名
2	第 112 回 月例研究会	「1 時間で覚えるビジネスプログ 絶対攻略セ ミナー」 吉丸亨氏 / 株式会社ソースクリエイト 取締役	7 月 22 日(火) 九州電力 イリス福岡店 多目的ルーム	18 名
3	30 周年・九州支 部 15 周年記念 公開講座	「ムッシュ・キハチが語る 食育・環境・情報 力～食卓は世界とつながっている～」 熊谷喜八氏 / 株式会社キハチアンドエス 代表 取締役社長	9 月 1 日(月) キハチカフェ 福岡三越 5 階	64 名
4	第 113 回 月例研究会	「ちょっとの努力で大きな成果を出すタイムマ ネジメント～情報の共有化は情報の公平化で 実現する～」 行本明説氏 / NPO 法人日本タイムマネジメン ト普及協会 理事	12 月 4 日(木) 福岡ビル 10 階 10A 会議室	20 名
5	第 114 回 月例研究会	マラソンミーティン 「今期のまとめと来期に 向けて	1 月 24 日(土) ～25 日(日) スパリゾートホ テル久留米	14 名
6	30 周年・九州支 部 15 周年記念 フォーラム 懇親会	「消費者に信頼される企業とは～不況を生き抜 く、モノ・ヒト・カイシャ～」 川原正孝氏 / 株式会社ふくや代表取締役社長 岡野博一氏 / 博多織元・岡野代表取締役社長 和田 慈氏 / NACS 会員 遠藤ひとみ氏 / イオンリテール株式会社 食品 商品本部	3 月 5 日(木) 西鉄イン福岡 2 階 A ホール	71 名

3 . 生活講習・講師の派遣

依頼元	テーマ	実施日	ヒーブ担当者
千葉県四街道市消費生活 センター	大人の食育講座	2008 年 7 月 8 日	日本ハム株式会社 / 川口徳子氏
	スポーツと栄養		日本ハム株式会社 / 柄澤紀氏

八千代市消費生活センター	食品の安全性について	2008年11月20日	日本生活協同組合連合会 / 鬼武一夫氏
武蔵野市消費生活センター	収納上手は節約上手 ～グッドハウスキーピングのすすめ～	2008年11月26日	株式会社女性の生活研究室 / みかなぎりか氏

#### 4. 「ヒーブの仕事講座」

依頼元	テーマ	実施日	ヒーブ担当者
専修大学	「お客様から教えていただいたこと」	2008年10月9日	07年度代表理事 有田里夏

#### 5. 出版物・印刷物

名 称	発行年月	内 容
レポートヒーブ	2008年11月 2009年4月	会員、マスコミ、オピニオンリーダーなどに、協議会の活動を紹介するため作成。年2回発行。 ・ 11月号特集:消費者支援功労者表彰 ・ 4月号特集:30周年記念行事/企業インタビュー
月例研究会レポート	(開催都度)	月例研究会の内容をまとめ、会員を対象に配付。
『日本人の生活力を考える ～現在(いま)を生き抜く 生活力とは～』情報カード 報告書	2008年2月	東京・関西・九州周年記念式典来場者に配布。 東京都消費生活総合センター・内閣府国民生活局消費者安全課等に配布。

#### 6. マスコミ記事掲載

##### <トピック関連>

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費と生活	消費と生活社	2008年 11・12月 号	企業の消費者対応部門が求める消費者庁像とは? 「民間の消費者対応の活力を活かせ! 消費者庁」 第15期会長 早川祥子 06年度代表理事 仁見貞子 08年度代表理事 三田まり子

##### <所信表明関連>

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2008年5 月15日	提言 2008「消費者問題はいま トラブルの多面的な検証で賢い消費者に」 代表理事 三田まり子
日本消費者経済新聞	日本消費者経済新聞社	2008年6 月9日	働く女性のベストサポーター 日本人の生活力を考える～現代(いま)を 生き抜く生活力とは 代表理事 三田まり子
消費と生活	消費と生活社	2009年 1・2月号	ヒーブ設立30周年をむかえて 代表理事 三田まり子

ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2009年1月1日	生活者の生活力アップに貢献 代表理事 三田まり子
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2009年1月1日	企業の対応力を社会に活かす 代表理事 三田まり子
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2009年1月1日	高まるパイプ役の重要度 関西支部長 川口徳子

## &lt;公開講座関連&gt;

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費と生活	消費と生活社	2008年5・6月号	オピニオン/分科会活動の成果を発表 3月12日に開催された分科会活動の発表と講演会について
月刊キャパシティ	(株)ゼネラル企画	2008年6月号	日本ヒーブ協議会 設立30周年 ヒーブ協議会30周年テーマおよび4月22日に開催された総会記念講演会について
日本消費者経済新聞	日本消費者経済新聞社	2008年6月9日	ヒーブ関西支部大会 講演会 働く女性にやさしい社会へ マザーネット・上田社長が講演
パンニュース	(株)パンニュース社	2008年8月15日	7月16日ヒーブ公開講演会 「食の安全と安心」東京大学名誉教授 唐木英明氏が講演
日本消費者経済新聞	日本消費者経済新聞社	2008年12月1日	調理能力を身につけるべき 関西支部「食育」で公開セミナー
パンニュース	(株)パンニュース社	2009年1月15日	「21世紀の日本人の生活力」12月度講演会にて沖幸子氏講演
パンニュース	(株)パンニュース社	2009年3月25日	日本ヒーブ協議会「日本人の生活力」テーマに30周年記念行事を開催
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2009年3月1日	日本ヒーブ協議会設立30周年「生活の向上目指し新たな情報発信」
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2009年3月16日	関西支部25周年「今こそワークライフバランスを これからも企業とのパイプ役を果たす」

## &lt;ヒーブ担当連載&gt;

誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
コスメチックからのメッセージ	日本化粧品工業連合会	2008年夏号	わたしにとってのおしゃれ・化粧品 「マッサージと先輩の一言に感謝」 山田新子
コスメチックからのメッセージ	日本化粧品工業連合会	2008年秋号	わたしにとってのおしゃれ・化粧品 「化粧品と私」 小松早苗
コスメチックからのメッセージ	日本化粧品工業連合会	2008年冬号	わたしにとってのおしゃれ・化粧品 「私のかかりつけ」 渡邊智恵
コスメチックからのメッセージ	日本化粧品工業連合会	2009年春号	わたしにとってのおしゃれ・化粧品 「カボスで体内から綺麗に！」 伊藤彩子



## ・運営のための活動

### 【グループ活動】

#### 1. 企画グループ

代表理事の諮問機関として代表理事を補佐し、全体の運営が円滑に行なわれるよう努め、行政・他団体・有識者などと積極的な情報交換を行ない、協議会の活動を社会にアピールした。

#### <活動実績>

##### (1) 理事会運営方法の見直し

理事会検討事項が非常に多いため、効率化のため7月から議事進行表を導入し、議題の事前提出・資料の事務局一括配信を導入した。

##### (2) 「ヒーブ コンセプト体系」の構築

ヒーブのあるべき姿、活動方針を協議し「ヒーブ コンセプト体系」としてまとめた。その中で、消費者・企業・行政を啓発していく取り組みは今後の活動の1つとして重要視され、今後注力していく。

##### (3) 予算管理の仕組みづくり

理事会で毎月の予算消化状況および会員の増減を把握できるよう、予算管理の仕組みを作った。

##### (4) 中間法人法廃止に伴う名称変更と定款変更、公益法人化の検討

日本ヒーブ協議会は、2008年12月1日より「有限責任中間法人」から「一般社団法人」に移行した。これに伴う必要手続を行政書士 石原先生に相談して実施。なおACAPが目指す「公益法人」化をヒーブも目指すのかどうかについては、次の1年間に社会発信力のある活動を意識して行い、どの程度結果が出せたか及び公益化のメリットを踏まえた上、採否を決めることとした。

##### (5) 事務局員の交代、事務局機能の再検討

2008年5月より村田さん採用、林さんと2名体制で週3日開局。林さんの退職に備え、2009年3月窪田さん採用。ホームページ更新作業を今後も事務局で行うか等、事務局業務の再考を継続中。

##### (6) ヒーブ招待客リストの更新

30周年記念行事に向けて、長らく見直しがされていなかった招待客リストの更新を行った。

##### (7) 行政・関連団体の主催する懇談会・研究会・記念式典等への参画

名称	主催	日時	参加者
男女共同参画推進連携会議	内閣府男女共同参画局	4月14日	代表理事 三田まり子
ACAP 総会・懇親会	(社)消費者関連 専門家会議	4月23日	代表理事 三田まり子
消費者功労表彰・表彰式 - 第11期会長 近藤康子氏 -	内閣府国民生活局	4月23日	07年度代表理事有田里夏 代表理事 三田まり子

NACS 設立 20 周年記念式典	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	5 月 29 日	代表理事 三田まり子
男女共同参画推進連携会議	内閣府男女共同参画局	6 月 17 日	代表理事 三田まり子
主婦連設立 60 周年記念式典	主婦連合会	10 月 1 日	代表理事 三田まり子
男女共同参画推進連携会議	内閣府男女共同参画局	12 月 2 日	代表理事 三田まり子
ACAP 講演会・賀詞交歓会	(社)消費者関連専門家会議	2009 年 1 月 14 日	代表理事 三田まり子
内閣総理大臣主催「観桜会」	内閣総理大臣	2008 年 4 月 18 日	代表理事 三田まり子

## 関西支部

名称	主催	日時	参加者
NACS 西日本支部のつどい	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会/西日本支部	6 月 7 日	関西支部長 川口徳子
日本消費者教育学会 消費者教育サロン	日本消費者教育学会 消費者教育サロン	8 月 27 日	関西支部長 川口徳子 運営委員 越智亜希
日本消費者教育学会 関西支部 総会	日本消費者教育学会 関西支部	10 月 25 日	関西支部長 川口徳子
NACS 設立 20 周年記念シンポジウム	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会/西日本支部	12 月 3 日	関西支部長 川口徳子 運営スタッフ 野田香

## 2. 研究会推進グループ

30 周年プロジェクトチームと連携し、会員の能力向上・ネットワーク醸成のために、各種講演会、分科会、交流会を企画・運営した。また、30 周年記念行事を開催することで、会員の積極的な参加意識を向上させるとともに、対外的にもヒーブの活動の認知を高める機会を作った。

### <活動実績>

#### (1) 月例研究会の開催

年間テーマ「日本人の生活力を考える～現在(いま)を生き抜く生活力とは～」に基づき、各分野から講師を招いてさまざまな角度から日本人の生活力について理解を深めた。(詳細は . 事業実績参照)

#### (2) 分科会の開催

年間テーマに沿って、5 つのテーマを掲げ、互いに情報提供、議論を積極的に行い、現在の生活者に必要な課題・問題点を共有化し「情報カード」を作成した。30 周年記念行事にて活動内容を報告し、「情報カード報告書」を会員及び上司・同僚、マスコミをはじめとする参加者に配布した。(詳細は P.17 参照)

##### 【分科会テーマ】

食育 <食べる力>  
安心・安全な暮らし <食べる力・情報力>

高齢化社会に必要な生活力〈食べる力・環境力〉  
エコなライフスタイル 〈環境力〉  
生活の中のリスクマネジメント（PL法）〈情報力〉

### （３）月例研究会レポート

毎回の活動内容を「月例研究会レポート」にて、全会員と講師の方に配信し協議会ホームページにも掲載した。

### （４）月例研究会・公開講座でのアンケートの実施

毎回アンケート調査を実施し、集計・分析した結果を、理事会で報告すると共に、会員へはホームページを使ってフィードバックした。

### （５）月例研究会で新会員・交代会員の紹介を実施

月例研究会において、新会員・交代会員に自己紹介してもらい、会員と速やかに交流できるようにした。

### （６）公開講座・交流会の開催

ヒーブ設立30周年を広く内外にアピールし、協議会の認知度を高めるため、一般の方も参加できる公開講座を4月、7月、11月、12月、3月に開催した。また、会員意識調査の結果を踏まえて、先輩ヒーブとの交流の場を設け、ヒーブの歩みを後輩ヒーブに伝達すると共に、今のヒーブに必要なもの、ヒーブの役割について協議し再確認した。同時にネットワーク醸成の場にもなり、参加者の満足度が高かった。（詳細は 事業実績参照）

### （７）実践講座の実施

10月には、「より良いコミュニケーションについて」というテーマで、ビジネスコミュニケーション、お客様対応部門ですぐに生かせる実践的な内容の講習会を行った。（詳細は 事業実績参照）

## 3．組織の活性化を図るグループ

組織活性化のために基盤の整備と会員の交流を支援した。

### <活動実績>

#### （１）会員の管理と拡大

理事推薦の際の参考情報として、会員の活動状況等を蓄積していく「会員情報リスト」を作成した。

賛助会員向けに上半期の活動報告書を作成し送付した。下半期は30周年記念行事の際に配布する資料と内容が重複するため作成せず、これを代用した。

入会・退会・会員変更・休会申込書の改訂、および、手続きの流れを整備した。

#### （２）諸規則の見直し

諸規則に関し、以下2点が理事会にて承認された。定款施行規則に反映させるのは2009年度以降となる。

！個人会員の定義を変更し、特別会員の定義を見直した。（11月）

組織図を変更することを理事会で決定した。（1月）

#### （３）グループ活動の推進

会員のヒーブ協議会活動への関与を深めること、会員同士の交流を促すことを目的に、全員参加を原則とした運営グループを組織化、グループ活動への参加を呼びかけた。月例研究会

受付や司会、規則改定の検討、定点調査の企画などで活躍してもらった。なお2008年度より、メンバーの名称を運営委員からグループメンバーに変更した。

#### (4) 懇親会の開催

会員同士の face to face の交流を図るために懇親会等を開催した。

月例会後に懇親会を開催。(7月・1月)

講演会と分科会との間の休憩時間を利用し、グループメンバー間で名刺交換会を開催。

#### (5) 新会員へのガイダンス

6月に新会員・交代会員を対象にガイダンスミーティングを開催した。協議会の概要、グループ活動、分科会などの活動内容を説明し、積極的参加を呼びかけると同時に、自己紹介や先輩会員の体験談「ヒーブの活用法」を通して会員相互の交流を深めた。

#### (6) 理事・監事選挙

2009年度役員選出のための選挙管理委員会を発足させ、選挙管理委員会活動が円滑に推進されるように支援した。(8月～3月)

##### 【選挙管理委員会】

	支部	氏名	会社名
委員長	東京	有田 里夏	はごろもフーズ(株)
委員	東京	大森 伸子	(株)学習研究所
委員	東京	志保沢 久子	味の素ゼネラルフーズ(株)
委員	関西	吉田 恵子	(株)ミツカン
委員	九州	宮崎 和恵	おおいたインフォメーションハウス(株)

## 4. 広報グループ

協議会の認知度向上のために会の内外へ情報発信を行うという役割のもと、次の活動を行った。

### <活動実績>

#### (1) マスコミなどへの広報活動

ニュースリリースの配信(3回)や30周年記念行事への招待などを通じて、マスコミ・消費者団体・行政への広報活動を実施した。またマスコミ関係者情報を整理し、リストの整備を行った。

#### (2) 「レポートヒーブ」の発行

会員向け機関誌『レポートヒーブ』を2回(11月・4月)発行した。30周年記念特集号として周年記念行事の報告を行なうとともに、内閣府や会員企業との対談記事に取り組むなど、活動報告に止まらない内容とすることで広報誌としての充実を図った。

#### (3) ホームページの運営およびリニューアル

HPの全面リニューアルを段階的(12月、2月)に実施した。なお、HP内のコンテンツ整理と見直しを順次行ってきたが、2009年度の継続取り組みとなった。

#### (4) 生活講習の実施

本協議会の「人財」を活用し、3箇所の消費者センターで生活講習を実施し、生活に役立つ情報を提供した。

#### (5) その他

広報活動の基本情報をまとめ、広報活動マニュアルとしての素案を作成した。今後も修正

を重ね、引継ぎなどの効率化に取り組んでいく必要がある。

## 5. 調査グループ

ヒープ視点で情報発信を行うために各種調査を実施するという役割のもと、次の活動を行った。

### <活動実績>

定点調査「働く女性と暮らしの調査」の企画・実施・報告

今期は「第8回働く女性と暮らしの調査」の企画を行った。調査グループ会議において、サブテーマを「多様化する女性のライフデザイン」とし、女性の働き方が多様化している現況を踏まえてタイプ別（既婚・未婚、子供あり・なし、正規社員・非正規社員等）に価値観を分析することを立案し、理事会へ報告した。来期、調査および分析を行う。

## 【支部活動】

### 1. 関西支部

30周年記念プロジェクトと連携し、同プロジェクトのテーマに沿って“生活力”とは何かを考え、企業の知をヒープ視点で社会へ発信し、“生活者と企業のパイプ役”の使命を果たす活動を目指して活動した。また、関西支部25周年記念の年に「ネットワーク」をサブテーマとし会員同士の活発な“ネットワーク”を促進してホットな活動を行った。

#### 【関西支部運営委員】

支部長	川口 徳子	(日本ハム株式会社)
研究会	木全 美里	(株式会社ミツカングループ本社)
組織	越智 亜希	(株式会社フレスタ)
広報	藤原 玲子	(株式会社ダスキン)
会計	藤原 正江	(株式会社アンデルセンサービス)

### <活動実績>

#### (1) 月例研究会活動

##### 月例研究会の目的

研究会活動では、会員一人一人が主体的に活動し、自らの課題認識力、それを解決する力、自ら考えたことを周囲に発信していく力など、ヒープに求められる資質の向上を目指し、各自の業務に具体的にフィードバックできるようテーマ設定を行い、研究会活動を行った。各月例研究会とも質疑応答が活発で、それぞれのテーマを深く理解できた。

##### 講演会

30周年記念プロジェクトのテーマ「生活力」に沿って開催し、全ての講演会を上司・同僚の方々も参加できる「セミ公開講座」「公開講座」とし、会員企業への理解を深め、また新規会員を募る一助とした。出席者は増え、会員とはまた違った視点による質疑が出され、理解をより深めることができ好評であった。

##### A C A P との合同月例会、施設見学会

A C A P と合同で月例会や施設見学会を開催し、両団体の懇親を深めるとともに、自らのヒーブとしての役割を理解する良い機会となった。

#### テーマディスカッション

会員が自ら考え行動する場として例年テーマディスカッションを実施しているが、本年度は、「生活力」について議論し、東京・九州支部と合同で「情報カード」の作成に取り組んだ。このテーマについて議論したことで各自の業務に役立てることができた。

#### 「運営スタッフ」制度

本年度も全員参加型の研究会活動を目指し、会員全員が「運営スタッフ」に登録、多くの会員が研究会の運営に携わりその活動を実感することで、ヒーブとしてのスキルの向上を図るとともに、会員の運營業務への理解を深めた。

#### 月例研究会の記録

月例研究会の内容と研究会に関するアンケート結果は、研究会レポート等でまとめ会員に報告し、会員が研究会活動で得た情報の定着を図った。

#### 来年度の研究会活動に向けて

3月の月例研究会では、今後のヒーブのあり方や、関西支部の活動方向について会員で活発な議論をし、来期の運営に反映させた。

### (2) ヒーブフェスタ関西 25th

関西支部 25 周年の記念行事として 2 月に「ヒーブフェスタ関西 25th」を開催した。「ヒーブの仕事紹介」では、「食べる力」「環境力」「情報力」のテーマ毎に、各企業が合同でブースを出し、資料展示・サンプル提供・ミニ講座をして会員企業の取り組みを紹介した。同じテーマでも企業ごとにアプローチの仕方に違いがあることがわかり、情報の層をより厚くして発信し、単なる企業紹介ではない、ヒーブならではの取り組みができた。また、会員同志や参加者とのコミュニケーションも図れた。会員全員の力を結集してイベントを開催でき、今後の活動への反映に期待が持てた。

### (3) 自主研究会活動

関西支部「お客様コミュニケーション技術研究会」では、今年度は計 3 回の研究会を開催し、次の活動を展開した。最近のお客様動向や対応事例、お客様対応部門の新たな取り組みなど、活発な情報交換を実施した。

株式会社資生堂を訪問。お客様センターの活動を聞き、センターの見学をした。

日本ハム株式会社「商品・販促ご説明会（展示会）」を見学した。

### (4) 広報活動

公開講座（支部大会の記念講演、ヒーブセミナー）に加えて、今年度は関西支部 25 周年記念「ヒーブフェスタ関西 25th」を開催し、関西地区における協議会の存在及び、その活動内容への理解度・知名度・影響力のアップを図った。

今年度も全ての月例研究会を「セミ公開講座」として会員の上司・同僚の方々に広く参加を呼びかけ、また、「ヒーブフェスタ関西 25th」では元ヒーブ会員にも案内し、ヒーブ活動を積極的に P R した。

### (5) 組織活動

#### ガイダンスミーティング

新入会員を対象として支部大会に合わせて「ガイダンスミーティング」を実施し、協議

会に対する認識を深めてもらうことで、月例研究会・支部運営活動への積極的な参加を促した。

### ふれあいディナー、ランチ

会員間交流の場として、今年度は「ふれあいディナー」を月例研究会の講師も交えて 1 回、「ふれあいランチ」を 2 回、ACAP との懇親会を 2 回実施した。講師を交えての「ふれあいディナー」は、講師と懇親を深めることができ有意義なものとなった。

月例研究会とはまた違った雰囲気自由に語り合える「ふれあいランチ」は、見学会で訪問した中部国際空港（セントレア/愛知県）でも行った。見学で学んだこと等、和やかな雰囲気でも会員同士のコミュニケーションを深める良い機会として好評を得た。

### 運営委員選挙

関西支部 2009 年度運営委員を選出した。

## 2.九州支部

30 周年記念プロジェクトと連携し、同プロジェクトのテーマに沿って「情報カード」活動を行うと共に、九州支部 15 周年記念の年に「個人力が、企業力とネットワークを強くする！」を掲げ、活動した。

前期に引き続き、企業と生活者のパイプ役を果たす私たちヒーブの一人一人が企業やユーザーにフィードバックできる個人力を高めるために、会員のヒーブ力アップにつながる活動を年間通じて行った。また同時に、ヒーブの企業における存在価値、社会の認知度を高める活動の推進を図り、新会員の拡大を念頭に置くことに注力した。

日本ヒーブ協議会が設立 30 周年、九州支部も 15 周年を迎えた本年度は、30 周年記念プロジェクトとの連携を通じて、生活者と企業のパイプ役を担ってきたヒーブならではの視点を支部全員で認識を深めた。同時に、その活動情報の伝達を行った。

また、理事 3 名、運営委員を全員で担当する中で、組織運営の課題とビジョンが明確となった。

### 【九州支部運営委員】

支部長 岩井 美樹（有限会社リリアプロジェクト）  
副支部長 権藤 玲子（西日本鉄道株式会社）  
副支部長 高柳 薫子（株式会社アヴァンティ）

他 17 名

### <活動実績>

#### (1) 月例研究会活動

「個人力が、企業力とネットワークを強くする！」をキーワードに、個人力を企業に生かし、貢献しているの方々をお招きし、時代の見つけ方、ヒーブの新たな役割を探ることに主眼を置いた。研究会を通じて生活者と企業の「パイプ役」としての視点を養うことで、会員のヒーブ資質の向上を目指した。

特に 6 月の平田進也氏、9 月の熊谷喜八氏を招いた公開講座では、多数の方々の参加をいただき、力強い月例を行えたことに、九州支部の持てる力とビジョンづくりに大きな役割

を果たした。

また、会員のスキルアップの一つとして、今期は「ビジネスブログ」と「タイムマネジメント」の取り組みについて学び、新しいチャレンジの可能性を探った。

毎年恒例のマラソンミーティングでは、1年間の振り返りと次期に向けての取り組みについて真剣に語り合う場となった。その中で、ヒーブ視点について学んでいくことの重要性を再認識するとともに、九州支部のあり方についても方向性を確認した。また会員相互のコミュニケーションをじっくりと深めることができた。

周年事業を通じて、関西支部、東京との連携を深めることができた。30周年テーマについては、その前に年間活動が決定していた九州支部としては連携が難しかったが、逆に、調整のための意見交換をしたことで持続できる連携の可能性を見出せた。

九州支部では会員間でメーリングリスト（ML）を使ってやり取りを行っており、大量のMLなので負担でもあるが、全体の流れをつかめることに加え、運営委員としての自覚を一人ひとりにもっていただくという意味では、有効なツールとなっている。会員間、及び外に向かって、より必要なことを伝える手段としてのツールの可能性も探りたい。

## （２）広報活動

新聞社やテレビ局などのマスコミへの広報活動は、企業リストなどを含めツールの見直しを行い、担当者を決めて行うようになって比較的スムーズになったが、交流にはいたらず、マスコミ懇談会は実施できなかった。現在は会員の個人力に頼りすぎている感もあるので、来年度は広報担当を置くこととなった。ヒーブ自身の広報力アップに期待したい。

## （３）組織活動

九州支部ならではのフットワークを活かし、全会員サポート体制をとり月例研究会への参加率アップを図った。

会員拡大に努め、新規入会も増えたが、一方では企業経営が厳しい中で会員の減少や休会があり、会員数では横ばいとなった。

全員で運営するという一方で、組織を置いていなかったため、理事の負担が増えた。来年度は広報担当同様、組織担当を置くこととなった。より風通しのよい組織づくりを期待したい。

## （４）事業計画書に示した課題について

### 30周年事業の遂行

九州支部の年間活動が決定した後の30周年事業との連携を、支部メンバーに理解・浸透させることに時間を要した。このことから、常にヒーブ視点の研究会を持続・継続させていけば、連動が円滑になるということを学んだ。ヒーブ活動において、今後、要（かなめ）にもなるという認識を持っている。

### 協議会の運営

九州支部は、消費者関連部門を持つ企業会員だけでなく、企画や販売を含め、幅広く活躍する企業、オーナー企業などの割合が多いという特徴を持っている。会員のニーズを満たすために偏りのない活動が必要と考えている。ヒーブの原点に戻ろうという声も挙がっているため、ヒーブの活動やその歴史を学びつつ、会員同士のコミュニケーションを図り、今後の活動に役立てたい。



## 【日本ヒーブ協議会30周年記念特別プロジェクト】

「日本人の生活力を考える～現在（いま）を生き抜く生活力とは～」のテーマにもとづき、30周年記念行事プロジェクトチームが理事会と連携し活動を行った。全員参加型で「情報カード」活動を展開し、プロジェクトチームが報告書を編纂した。また、東京および関西・九州支部の月例研究会を「月例研究会 講演録」にまとめ、「情報カード報告書」と共に周年式典への参加者に配布した。

30周年記念式典では、年間の活動成果を発表し、ヒーブ協議会の意義をアピールした。式典の第一部ではトークセッション、第二部では記念公演を開催し、会員のみならず、行政、消費者団体、有識者、マスコミ、先輩ヒーブを招待し、多彩な内容を広く発信することができた。30周年記念の活動は会員自らが行動し発信する機会となった。

### 【30周年記念特別プロジェクトメンバー】

リーダー	三浦 千佳子	（日清製粉株式会社）
事務局	田代 文子	（パナソニック電気株式会社）
情報カード編集チームリーダー	杉本 美穂	（ライオン株式会社）
イベント開催チームリーダー	大場 眞知子	（株式会社ゴールドウイン）

他17名

### <30周年記念式典>

日時：2009年2月18日（水） 会場：グランドアーク半蔵門

#### 第一部

ヒーブ30年のあゆみ	代表理事/三田まり子
30周年記念活動報告	30周年プロジェクトリーダー/三浦千佳子
情報カード活動報告	30周年情報カード編集チームリーダー/杉本美穂

#### 第二部 トークセッション「日本人の生活力を考える～現代（いま）を生き抜く生活力とは」

杉森一広 様	（株式会社オレンジページ 雑誌編集部 部長）
谷みどり 様	（経済産業省 商務流通グループ 消費者政策研究官）
深川幸子	（第20期会長 花王株式会社 メディア企画センター）
山本加津子 進行役	（第13期会長 NPO法人J-Win 広報担当部長）

#### 記念講演会：

「企業と消費者～成熟した関係を築く～」 坂東真理子 様（昭和女子大学学長）

#### 懇親会

#### 主な来賓者：（登壇順）

内閣府食品安全委員会委員長/見上彪様、内閣府男女共同参画局局长/板東久美子様、内閣府大臣官房審議官国民生活局担当/堀田繁様、消費者支援機構関西副理事長 弁護士/片山登志子様（日本ハム株式会社 社外取締役）、東京大学名誉教授 日本学会議副会長/唐木英明様等

## ・組織

有限責任中間法人日本ヒーブ協議会2008年度の活動は、代表理事以下、理事会及びその下に組織された各グループによって行った。

なお、今期の理事会は「理事会準備会」を1回、「理事会」を11回実施した。

## 【役員】

代表理事	三田 まり子	(株)販売促進研究所
副代表理事	野田 郁子	昭和産業(株)
副代表理事	鍵谷 泉	ユニ・チャーム(株)
副代表理事	水島 昭子	日本ハム(株)
理事	阿部 けい子	日本ミルクコミュニティ(株)
理事	伊藤 彩子	(株)女性の生活研究室
理事	岩井 美樹	(有)リリアプロジェクト
理事	大谷 由紀	三菱自動車工業(株)
理事	川口 徳子	日本ハム(株)
理事	権藤 玲子	西日本鉄道(株)
理事	白井 真理子	日本製粉(株)
理事	高柳 薫子	(株)アヴァンティ
理事	田代 文子	パナソニック電工(株)
理事	豊嶋 朋子	(株)マーメイドベーカリーパートナーズ
理事	細島 芳	第一生命保険(相)
理事	益田 由美子	ジュピターショップチャンネル(株)
理事	山田 新子	(株)コーセー
監事	岡田 恭子	(株)資生堂
監事	町田 成美	明治安田生命保険(相)

## 【運営グループ】

企画グループ	リーダー	三田 まり子	(株)販売促進研究所
研究会推進グループ	リーダー	大谷 由紀(12月まで)	三菱自動車工業(株)
	(1月以降)	阿部 けい子	日本ミルクコミュニティ(株)
組織の活性化を図るグループ	リーダー	白井 真理子	日本製粉(株)
調査グループ	リーダー	水島 昭子	日本ハム(株)
広報グループ	リーダー	細島 芳	第一生命保険(相)
関西支部	支部長	川口 徳子	日本ハム(株)
九州支部	支部長	岩井 美樹	(有)リリアプロジェクト

**【会員数】**(2009年3月31日現在)

正会員	177名(134社)
うち関西支部	37名(30社)
うち九州支部	19名(17社)
特別会員	23名
個人会員	14名
賛助会員	34社
休会	8名

**【事務局】**

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2丁目2番2号 金杉ビル401号

TEL 03-3320-3155 FAX 03-3320-3166

URL <http://www.heib.gr.jp/> E-mail [heib@blue.ocn.ne.jp](mailto:heib@blue.ocn.ne.jp)

事務局 林 恭子 村田 由香里 窪田 久美子

## 2008年度収支決算報告書

自 2008年4月1日

至 2009年3月31日

有限責任中間法人 日本ヒーブ協議会

## 1. 一般会計

## &lt; 収入の部 &gt;

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
会 費	10,500,000	10,461,000	39,000
正 会 員	10,320,000	10,275,000	45,000
個 人 会 員	180,000	186,000	6,000
入 会 金	310,000	245,000	65,000
正 会 員	300,000	240,000	60,000
個 人 会 員	10,000	5,000	5,000
賛 助 会 費	3,000,000	2,750,000	250,000
雑 収 入	1,085,000	950,163	134,837
預 貯 金 利 息	0	10,329	10,329
特 別 例 会 費	700,000	844,500	144,500
そ の 他	385,000	95,334	289,666
合 計	14,895,000	14,406,163	488,837

## 特別例会費内訳

東京本部	294,000
関西支部	126,000
九州支部	424,500

## &lt; 支出の部 &gt;

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
<b>グループ活動費</b>	4,630,000	3,355,282	1,274,718
企画活動	200,000	99,950	100,050
研究会推進活動	2,550,000	1,685,899	864,101
組織の活性化を図る活動	100,000	17,060	82,940
広報活動	1,580,000	1,387,418	192,582
調査活動	200,000	164,955	35,045
<b>関西支部</b>	1,600,000	1,216,773	383,227
<b>九州支部</b>	1,100,000	1,210,161	110,161
<b>運 営 費</b>	7,565,000	7,009,758	555,242
家賃	1,200,000	1,099,560	100,440
人件費	2,925,000	2,415,950	509,050
税理士費	480,000	480,000	0
通信費	700,000	606,325	93,675
交通費	850,000	1,172,480	322,480
会議費	10,000	12,800	2,800
交際費	10,000	10,000	0
消耗品費	220,000	85,402	134,598
保守料	750,000	779,689	29,689
雑費	420,000	347,552	72,448
<b>30周年記念プロジェクト</b>	0	1,500,000	1,500,000
<b>支 出 合 計</b>	14,895,000	14,291,974	603,026
<b>剰 余 金</b>	0	114,189	114,189
<b>合 計</b>	14,895,000	14,406,163	488,837

## 有限責任中間法人 日本ヒーブ協議会

## 2. 特別会計

## &lt; 収入の部 &gt;

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
任意団体より	3,000,000	1,500,000	1,500,000
一般会計より	0	1,500,000	1,500,000
参加費等	0	547,000	547,000
収 入 合 計	3,000,000	3,547,000	547,000

## &lt; 支出の部 &gt;

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
東京・全体	2,000,000	2,237,060	237,060
関西支部	500,000	499,684	316
九州支部	500,000	461,912	38,088
支 出 合 計	3,000,000	3,198,656	198,656
剰余金	0	348,344	348,344
合 計	3,000,000	3,547,000	547,000

## 貸借対照表

2009年3月31日現在

有限責任中間法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
現金	91,975	預り金	24,583
普通預金	3,372,470	未払費用	303,705
未収入金	19,743	前受金	456,000
前払費用	85,000	出資金	3,000,000
保証金	76,000		
		前期繰越損失	601,633
		当期利益	462,533
合計	3,645,188	合計	3,645,188

## 損失処分案

有限責任中間法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

当期末処分損失	
前期繰越損失	601,633
当期利益	462,533
合計	139,100
次期繰越損失	139,100

上記のとおり会計報告は原本と相違ございません。

2009年4月3日

監事 岡田 恭子

町田 成美